

第4回 南部地区街づくり協議会 議事録（要旨）

1. 開会あいさつ（並河市長）

- ・ 前回の協議会から、柳本では校区ウォークを行っていただいたり、長柄駅では開業 100 周年記念イベントについてもお集まりの方々に非常に盛り上げていただいたりと、地元の皆様に対して暑くお礼申しあげる。
- ・ まちづくりを支援するために県が進めている県市連携の第 1 弾として本市と協定が結ばれた。今話題の駅前のことだけではなく、各地区においても全市を結びつけていることをご評価された。現時点では包括的な街づくりを応援していただくという協定だが、今後、具体的なプロジェクトについて個別協定を結べば県の財政措置も考えていただけるとのこと。
- ・ 本日も短期的・中長期的プロジェクトを具体的に進めていくために、皆様と議論を進めていきたい。

2. 事務局連絡（欠席委員報告、奈良県立美術館 大古事記展の案内（委員より）、 じゃんじゃん市について報告（委員より））

3. 議 事

【以下、委員の発言要旨】

（1）推進委員の取り扱いについて

- ・ 活性化プロジェクト推進委員の事務局案について、団体・地域等を勘案しながら振り分けをさせていただいた。あくまで案であり今後の微調整は必要と考える。
- ・ 推進委員の位置づけについて、皆様方が所属されている団体や地域の住民への橋渡し役という位置づけであり全責任を負うものではない。また、担当外のプロジェクトについて意見や情報提供ができなくなるということではなく、推進については協議会の皆様全員で進めていただきたい。

（2）①No. 1 周遊観光拠点整備プロジェクトについて

- ・ 1 つはトレイルセンターの周遊観光拠点整備について。2 点目は先般の長柄駅 100 周年記念イベントの際に物販をしていただいた、長柄駅を守る会の方々にも倉庫として使っていただいているスペースについて、地元朝和の皆様にもう少し活用いただけてはどうか。この 2 か所について短期として考えていきたい。
- ・ （トレイルセンター及び長柄駅倉庫スペースについて、資料 16、17 ページにより事務局から説明。）
- ・ どれだけ魅力的なものを売るかということが非常に大切。発信力を持った産品と一緒に作ることも拠点整備と併せてやっていかなければならないと考えている。
- ・ 拠点整備についてはサイクリングやノルディックウォークといった周り方を、天理駅や長柄駅、トレイルといった拠点でしっかり繋げて周遊観光の促進を図っていきたい。

- ・山の辺の道については東海自然歩道にも指定されており、県では自然環境課で事業を展開している。そちらとも連携して進めていただければと思う。
- ・トレイルについては包括連携協定を結んでいる天理大学とも連携のうえ、詰めなければならないが学生の運営参加も検討したい。
- ・長柄駅のスペースについては毎日開ける必要はないと考える。土日がメインになると思うが季節のイベント等を勘案しながら市で検討してもらえれば。
- ・長柄駅を守る会の方が清掃用具等を置いておられるので、スペースの整理は行わなければならない。鍵の管理等についても整理が必要。
- ・そんなに広いスペースではないが、奥に棚等を整備して間仕切りを行えば、そこに用具を置いて前側を活用することはできると思う。
- ・資料にトレイルの図面がついているが、実際に物販の為の整備をするのはどの程度の範囲か。
- ・現状は入り口を入れて左側が休憩スペース、右側が黒塚等の展示スペースになっているが、現段階の構想としては右側の展示スペースを一部整備し、物販の為のしつらえを行いたいと考えている。整備の方向性についても協議いただければ。
- ・スペースには若干の余裕を持たせておいて、季節おりに商品のしつらえを変えられる方がよい。客は来るが並べる品物がないというようなことのないよう、物販の方向をしっかりと決めて継続的に販売を行っていかなければならないと思う。
- ・実際に立ち寄る人を増やすという意味では、サイクルスポット整備といった立ち寄らせる工夫や市内の物産を販売しつつ、やはり近隣の桜井市の物産等も併せて置いた方が内容は充実するのではないか。
- ・中の整備も必要だが、東側外の軒下についても何か有効活用できないか。天気が良い日などは外での物販や定期的な市も考えられるのでは。
- ・現在のトレイルセンターでは飲食ができないとの注意があるようだが、機能を維持しながら物販の整備をするのであれば、試食等も想定されるので、そのあたりの利用規定の内容も検討が必要である。
- ・ごみ箱を特別には設けておらず、持ちかえりの面でそのような促しを行っているのが現状。あくまで管理の面での規定であるので、今後、運営側との認識を共有する必要がある。
- ・農産物について、山の辺の道沿いには多くの無人販売が行われているので、それらとの連携を図る必要があるのでは。
- ・商品の賞味期限の比較的長いものについては置くところも様々に検討できるが、旬々でしかないような農産物については、物によって“持ち”が変わってくる。商品の品質や管理をしっかりと定めておかないと何かクレームが発生した場合の責任所在や対処が問題になってくる。
- ・一日中開けておくというよりかは、直売部や二階堂のほのぼの市でやられているような朝市の朝和版という方向もあるのでは。

(3) ②No.2 物産高付加価値化モデルプロジェクトについて

- ・(物産高付加価値化モデルプロジェクトについて、資料 18 ページにより事務局から説明。)
- ・パッケージデザインや商品の中身自体に手を入れるということも充分考えられる。基本的には朝和・柳本校区の関心を持っておられる事業者を募集し、街づくり協議会が関与して市が金銭的補助・デザイナー等との仲立ちを支援する。
- ・単に特産品を開発するだけに留まらず、拠点整備のプロジェクトや天理駅前、県のまほろば館等に置いてもらい、様々な雑誌媒体にも取り上げていただけるような商品を創出しなければならない。全部をいっぺんに作り替えることは難しいが、身近な商品がよくなることの実例を示すことで市内の物作りに活気を与えたい。
- ・パッケージについても高付加価値をつける際には非常に大切な分野かと思うが、農産物であれば農薬を使わない、オーガニックであるということに非常に関心が高くなってきている。そういった関心の高い部分も一つポイントでは。
- ・既存の物産について、どういう種類のどのような商品があるのかがわからないので一覧等を示してもらえると議論しやすいのでは。
- ・事務局から商品名をお示ししづらい部分もあるので、推進委員と相談しながら、南部と言えど何があるのかを整理し、次回にリスト等をお示ししたい。
- ・どういった産品があるのかについて一番よく知ってるのは市民だと思うので、市民が選ぶ形で進めれば広がりやメディア媒体に対しても効果的ではないか。
- ・具体的な実施を考えるとまずはパイロットプロジェクトとして協議会で選考したものをブラッシュアップし、それをきっかけとして今後より広く市民に広がりを持たせた形で進めていけないか。
- ・天理の味お届けプロジェクトについて、何を詰めるかを市民から募集するとか、拠点整備の際に市民の一押しの商品としてPRすることなどは可能と思う。
- ・推薦いただいた商品について、事業者が変化を望んでいなければ難しい部分もあるのではないか。
- ・費用の負担等、企業に対する支援はどのようなものを想定しているのか。
- ・デザイン等の開発費を市と県の補助金で支援し、実際の製造についてはすべて事業者負担を想定している。
- ・明日香村の商工会では明日香ブランドと言う取り組みをされていて、外向きに明日香を発信していく商品の基準を定め、一般の事業者はその基準に合うように商品を作り、それを認定する制度が定着している。認定商品には共通のシールを添付し、全国お届けのような取り組みや直売所での販売においてもブランドの付加価値を与えている。
- ・総務部でも取り組んでいただいているふるさと納税の商品の一つとして決定すれば、開発した商品の需要もある程度見込める上、全国にPRできるということで参加いただきやすいのでは。

(4) ②No. 10 施設を活かした道の駅プロジェクトについて

- ・(施設を活かした道の駅プロジェクトについて、資料 19, 20 ページにより事務局から説明を行った。)
- ・県の南部地域の観光客の方の多くは車観光である。その観光客を地域に引き寄せるために道の駅機能を持った施設の整備を検討したい。
- ・一つの業者に借りていただいて終わりではなく、地元柳本・朝和の皆様が積極的に活用して、産業振興を図る拠点になるようなプロジェクトを検討したいと考えている。黒塚の資料館や柳本公園とも空間として一体としていただければ、黒塚の駐車場も有効に活用していただければ。
- ・武家屋敷については内装整備に数千万円程度の費用の発生が見込まれるので、含めてやってくれる業者を探るか、あまりお金をかけないで地元の皆様にうまく活用していただく策を検討したい。
- ・モデルハウスについて、所有者は非常に思い入れがあり、建物を活かした活用で地域に貢献できればと考えておられる。そういう思いを尊重できる事業者を活用してもらえることが一番良い。

(5) その他

会 長 ⇒並河委員

- ・26 年度下半期で特に進める必要があるものについて本日はご議論いただいたが、その他のプロジェクトについて 27 年度よりしっかりとやっていけるように推進委員の方々と準備を進めていきたいと考えている。
- ・じゃんじゃん市においては協議会からグランプリの審査員を選出いただき、地元の方々にも協議会の取り組みについて知っていただける大きなきっかけになった。今後も是非、協議会の枠組みをうまく活用していただければ。今出てきているプロジェクトにこだわることなく、どんどん使っていただきたい。

4. 本日のまとめ

本日も様々ご議論いただきありがとうございました。議論を繰り返すばかりで中々進捗が見えにくい部分もあるかと思いますが、こういう議論をしっかりとやってきたことが県市連携のトップバッターに選ばれたことにつながったと考えている。これから来年度、再来年度にさらに実施に向けて動いていけるよう、ご意見を整理していきたい。また、来年度の予算についても載せこむべきものについてはしっかり反映して、ご相談していきたいと考えている。

5. 次回の日程と主な協議内容

次回第 4 回協議会は 11 月下旬 (25 日の週) に予定し、後日、日程調整を行う。

6 閉 会 -11:30-